



みんなのホスピタルガイド

企画・道新サービスセンター

ドクターからのアドバイス

“リウマチ”とは

佐川昭リウマチクリニック 院長 古崎 章 先生



北海道大学医学部卒業。
医学博士。日本リウマチ学会認定
リウマチ専門医。

“リウマチ”という言葉ですが、ギリシャ語のrheuma（リューマ：流れ）が語源となっており、西暦200年当時のギリシャでは、病気は脳から悪い液体が体の一部に流れ込んで病気を起こすと考えられ、悪い液体が関節に流れ込んで関節痛を起こす病気を“リウマチ”と呼んでいました。“リウマチ”性疾患とは、骨、関節、筋肉などの運動器に痛みや炎症を起こす病気の総称であり、関節リウマチはリウマチ性疾患の一部となります。リウマチ性疾患には、尿酸結晶による関節炎である痛風、年齢に伴い軟骨が劣化し関節の隙間が狭くなり骨が肥大し節が太くなる変形性関節症、高齢者に多く、首や肩周り、腰から太ももが痛くなるリウマチ性多発筋痛症、シェーグレン症候群や全身性エリテマトーデスなどの“膠原病”といわれる病気が含まれます。特に関節リウマチはリウマチ性疾患の中でも患者さんが多く、関節を中心とした炎症のために、特に朝方に関節が動かしくなる“こわばり”をはじめとして、関節の痛みや腫れが起こり、進行すると軟骨や骨が壊され、関節が変形して、身の回りのことや社会活動に支障をきたす病気です。早めの適切な治療により、症状や病気の進行を抑えて、普通の生活を送ることが可能になってきています。関節のこわばりや腫れや痛みがある場合、まずは病気の鑑別や診断が必要になりますので、かかりつけの医療機関や整形外科やリウマチ科などに相談することをお勧めいたします。